

ママが小さくなったら

もりやま
あやか
森山 絢月

わたしが、ママをお世話したいと思ったのは、ついさい近のことです。ママがとでもつかれていて、しんどそうにしていたからです。

どうすればママのお世話ができるか考えたら、虫かごに入る大きさに小さくすれば、とひらめいたのです。さっそくママに言いました。ママは

「いいね。」

と言って、大きな声でわらいました。

じゅんぴをはじめました。ママのおへやは虫かごで、洋服はリカちゃん人形です。いどうする時は、わたしのポケットの中に入れていつもいっしょです。ママがつぶれていないかかくにんします。声をかける時は、お耳が小さいので小さな声でささやきます。うれしい時もなきたい時もささやきます。お世話もがんばります。ママがわがママを言う時は、こう言うつもりです。

「うるさい。だまりなさい。」

きつとわたしの気持ちに分かるはずですよ。

それから、おふろはおちやわんで、ごはんは、わたしのごはんを分けてあげます。おはしはつまようじです。心ばいだから学校にもこっそりつれていくよいです。じゅぎょう中にしつかり聞いているところをママに見てもらいます。体育でなわとびをしているところを見て、ママはほめてくれるかな。ねむるとき

は、虫かごをわたしのベッドのそばにおいていっしょにねます。子守歌は、わたしがたん当します。あいじょうたつぷりこめて歌います。ママとの時間を大切にします。

お世話をはじめたら、ママはつかれなくなるかなあ。たくさんわらうママが見られるかなあ。ちよつとふあんになってきた。まだまだじゅんぴが足りないかもしれない。考えていたら、ママにだきしめてもらいたくなってきました。

「ママ、だっこして。」

ママは、

「赤ちゃんみたい。」

わらって、いつものようにぎゅつとだきしめてくれました。やっぱりママのだっこにはかなわない。ママが小っちゃくなるとぎゅうができない。ママは大きくなっちゃいけない。お世話はしたいけど、小さくするのはしつぱいです。

わたしは、今のママが大すきです。だからママを小さくするのはやめて、ママに感しゃしながら、わたしが大きくなることにします。

わたしはまだまだ小さいけれど、ママがしんどい時、わたしがママをぎゅうとしてあげる。

今日もわたしの話を聞いて、わらってくれたり、よろこんでくれたり。そして、ぎゅうとだっこしてくれてありがとう。